

相生山緑地オアシスの森くらぶ ニュースレター

35号

2009.5.23 発行

発行/相生山緑地オアシスの森くらぶ編集委員会 発行人/大館 学 編集長/近藤 真史

INDEX

【本号掲載分の活動】

- 1月24日(土)… コナラ大木伐採/定例活動
- 2月14日(土)… シイタケ菌打ち/特別活動
- 2月28日(土)… アカマツ林再生プロジェクト/定例活動
- 3月28日(土)… 第11回萌木祭り/定例活動
- 4月25日(土)… 2009年度総会/定例活動

1月定例活動

コナラ大木伐採



トンボ池は、匿名の方が水を補給して下さるので、年中水の涸れない良い環境になってきました。西側の梅園を剪定したところ、里山の雰囲気が出て

きたのですが、南側のコナラの大木が大きな陰を落とし、谷を暗くしていました。秋に多数のアサギマダラを呼び寄せるフジバカマの生育にも影響を与えそうです。コナラは元々定期的に伐採されていた木なので切り倒すことになりました。

当日は最高気温5.9度、時折時雨れる悪天候でしたが参加者13名、午前中女性グループはツツジの小径を整備、男性グループが大ノコギリを使って手引きでコナラにアタック。交替で刃を入れて昼食前に9割方切りました。昼食後、全員が見守る中で最後の刃を入れ始めると、空がにわかに掻き曇り、霞が猛烈に吹き付けてきて、最後のノコギリを入れると、吹き荒れる霞を切

り裂き、轟音を轟かせて地面を叩きつけました。あまりの迫力に全員が声も出ずに見つめていました。

倒れきったのを見届けて、全員が我先に木に取り付いて枝を切り落とし始めました。多勢の力はすごいもので、一時間もすると木は解体され、天気も回復して青空が広がり、眼前に明るい谷が広がっていました。「これこそ里山風景だね。」と誰ともなく言い、不思議な白昼夢を見たような気分になりました。

ちなみに、年輪を数えると樹齢は約40年で、コナラの生長のすごさに目を見張りました。

(伊藤 晶)

2月定例活動

アカマツ林再生プロジェクト



2月定例会は、かれこれ10年の歴史を持つ相生山緑地南西のアカマツ林再生です。今になって思い出すと当時は松の木に精気がなく、根本には落ち葉が腐葉土となって厚い層をなしており、

まさにアカマツ林は瀕死の様相でした。日頃の活動エリアとは離れた場所にあるため、1年ぶりの松との対面でしたが、生き残った松はそれぞれ生き生きした様子でした。また明るくなった地面には多くの実生の松も見られます。このような光景に出会うと、思わず笑みがこぼれます。森の手入れも子育てに通ずるものがあります。

毎年の手入れが行き届いていることもあり、作業は午前中で終わることができ、午後はトンボ池北側の竹の除伐作業を行いました。

松葉を焚き物にしていた時代と違い、あえて自然の遷移に逆らって松林を保全する意味をまじめに考えると難しいですが、私はいつの日か相生山で松茸が採れることを夢見ています。くらぶ

の仲間と秋に松茸を食することが出来る時が、アカマツ山における自然と人間との共生が実現する時ではないでしょうか。

それまで気長にこのプロジェクトに参加していきたいと思っています。

(村田)



▲明るくなった林床に育つ実生苗